

2026年9月期 第1四半期 決算説明資料

2026年2月12日

Circulate
the possibilities



株式会社アサカ理研

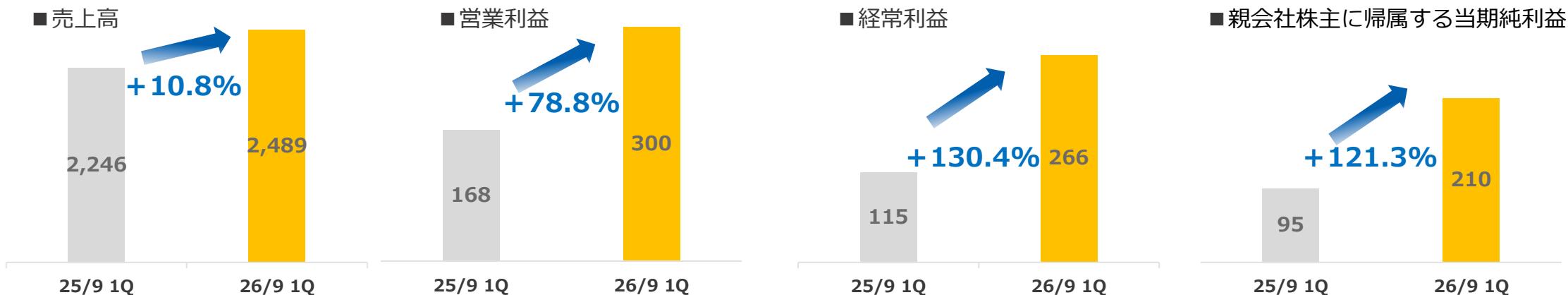
証券コード：5724

1. 2026年9月期 第1四半期 決算概況
2. LiB再生事業の進捗

1. 2026年9月期 第1四半期 決算概況
2. LiB再生事業の進捗

連結損益計算書(前期比較)

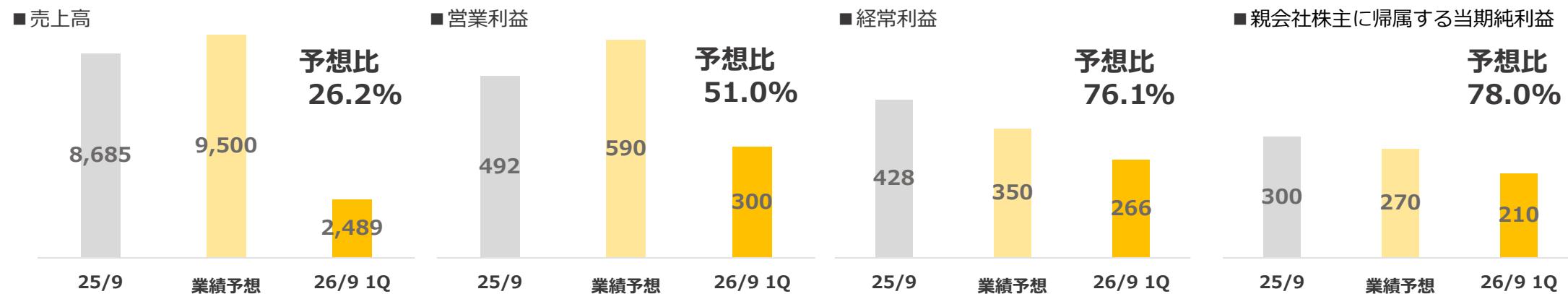
百万円(百万円未満切り捨て)	25/9期 1Q	26/9期 1Q	増減	増減率
売上高	2,246	2,489	243	+ 10.8%
営業利益	168	300	132	+ 78.8%
経常利益	115	266	150	+ 130.4%
(経常利益率)	5.1%	10.7%	5.5pt	-
親会社株主に帰属する当期純利益	95	210	115	+ 121.3%



- 金の相場上昇により前期比で増収増益。
- 金をお客様に返却する取引が増加し、金地金の販売が減少したことで、売上高の増加は限定的となった。

連結損益計算書(業績予想比較)

百万円(百万円未満切り捨て)	業績予想 ※上方修正後の数値	26/9期 1Q	予想比
売上高	9,500	2,489	26.2%
営業利益	590	300	51.0%
経常利益	350	266	76.1%
(経常利益率)	3.1%	10.7%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	270	210	78.0%



●金の相場上昇により、2026年1月30日に期初業績予想を上方修正。

各セグメント別実績

		百万円(百万円未満切り捨て)		
		25/9期 1Q	26/9期 1Q	増減
貴金属 事業	売上高	1,893	2,072	179 +9.5%
	セグメント利益	84	221	137 +162.5%
環境事業	売上高	301	326	24 8.3%
	セグメント利益	15	3	▲11 ▲77.8%
システム 事業	売上高	48	81	32 67.7%
	セグメント利益	2	30	28 +1,182.3%

※各セグメントの売上高については
セグメント間取引を含んでおります

- + 金を中心とした貴金属相場の上昇により増収増益。
- + 金をお客様に返却する取引が増加。金地金販売による売上高への影響が小さくなつたことで利益率上昇。

- ± 銅相場の上昇により販売単価が上昇し増収。配賦費用の増加により前期比減益。

- + 品質管理システムの売上増加により増収増益。

連結貸借対照表

(百万円)

	25年9月末	25年12月末	増減	要因
資産合計	13,806	16,862	3,056	LiB再生事業の借入による資産増加
流動資産合計	7,922	10,475	2,553	現預金の増加、製品・仕掛品の増加
固定資産合計	5,884	6,386	502	
有形固定資産	5,502	5,925	423	LiB再生事業の設備取得に伴う建設仮勘定の増加
無形固定資産	55	113	57	
その他	325	347	21	
負債合計	8,880	11,773	2,892	
流動負債	3,085	3,928	842	金(Au)の借入増加
固定負債	5,795	7,844	2,049	長期借入金の増加
純資産合計	4,925	5,089	163	
自己資本比率	35.39	29.95	▲5.44	有利子負債増加に伴い
D/Eレシオ (負債資本倍率)	1.15	1.50	0.35	自己資本比率低下、D/Eレシオ上昇

- 長期借入金60億円（2024年12月契約）の3回目（最終）の分割借入を実行。
- LiB再生事業に係る設備投資資金の調達により、流動資産、固定負債が増加。
- LiB再生事業の設備は稼働開始まで建設仮勘定として計上。
- 金相場の上昇により、製品在庫の評価額が増加。

1. 2026年9月期 第1四半期 決算概況
2. LiB再生事業の進捗

脱炭素化への課題(ニーズ)

- ・ LiBの原料であるレアメタルの供給懸念
- ・ EVの廃棄に伴うレアメタル資源の消失



LiB再生で提供する価値



- ・ CO₂排出量の削減(脱炭素化)
- ・ レアメタル資源枯渇の防止
- ・ 鉱山開発による環境破壊の防止

中期戦略

2028年～2035年



LiB工程廃材※にフォーカス

※LiB製造工程で発生する端材や不良品

- 集荷が比較的容易
- 早期に収益化が見込める

2030年LiB工程廃材見通し

当社
処理量

約1.5万台分

市場供給量

約10万～50万台(当社試算)

長期戦略

2035年以降



使用済みLiBとLiB工程廃材を平行処理

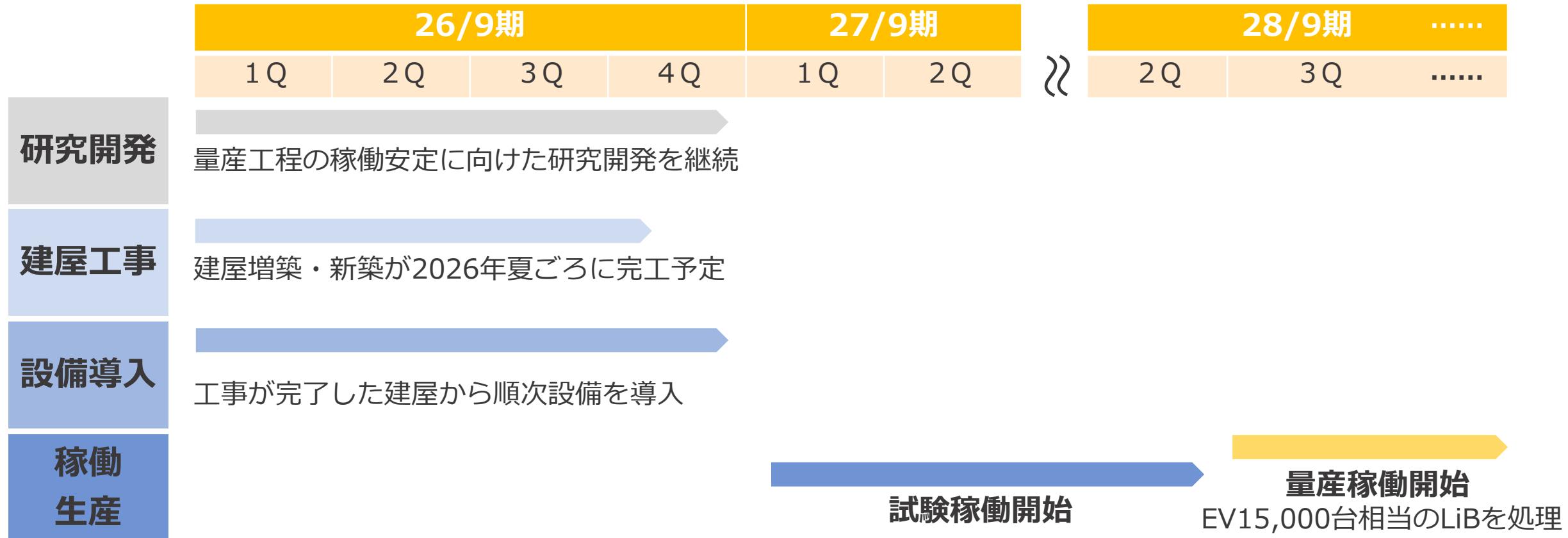
- △ 発生時期が早くても2030年代後半
- 数量はLiB工程廃材を大きく上回る



LiBトレンドの変化への対応

- LiBの走行距離増加(高容量化)に必要な
水酸化Liの量産技術を保有

工場稼働までのスケジュール



- 2026年10月から試験稼働期間を約1年半設け、当社が再生させたレアメタルの品質をサンプル品としてお取引先様にご確認いただく
- 2028年4月の商用化開始の時期から工場の処理キャパシティ見合いの原料を調達し稼働率が100%に近い状態に達する計画

投資回収計画

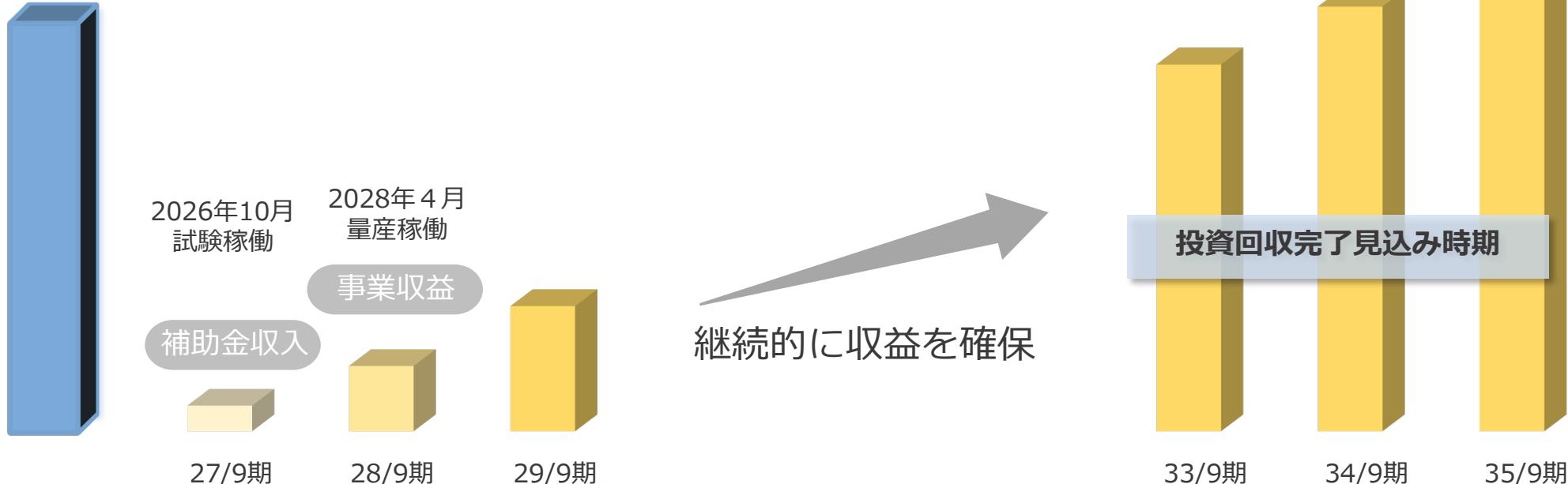
設備投資
総額95億円

サンプル品
製造フェーズ

量産稼働
安定化フェーズ

投資回収フェーズ

LiB再生事業での
獲得キャッシュフロー(累計)



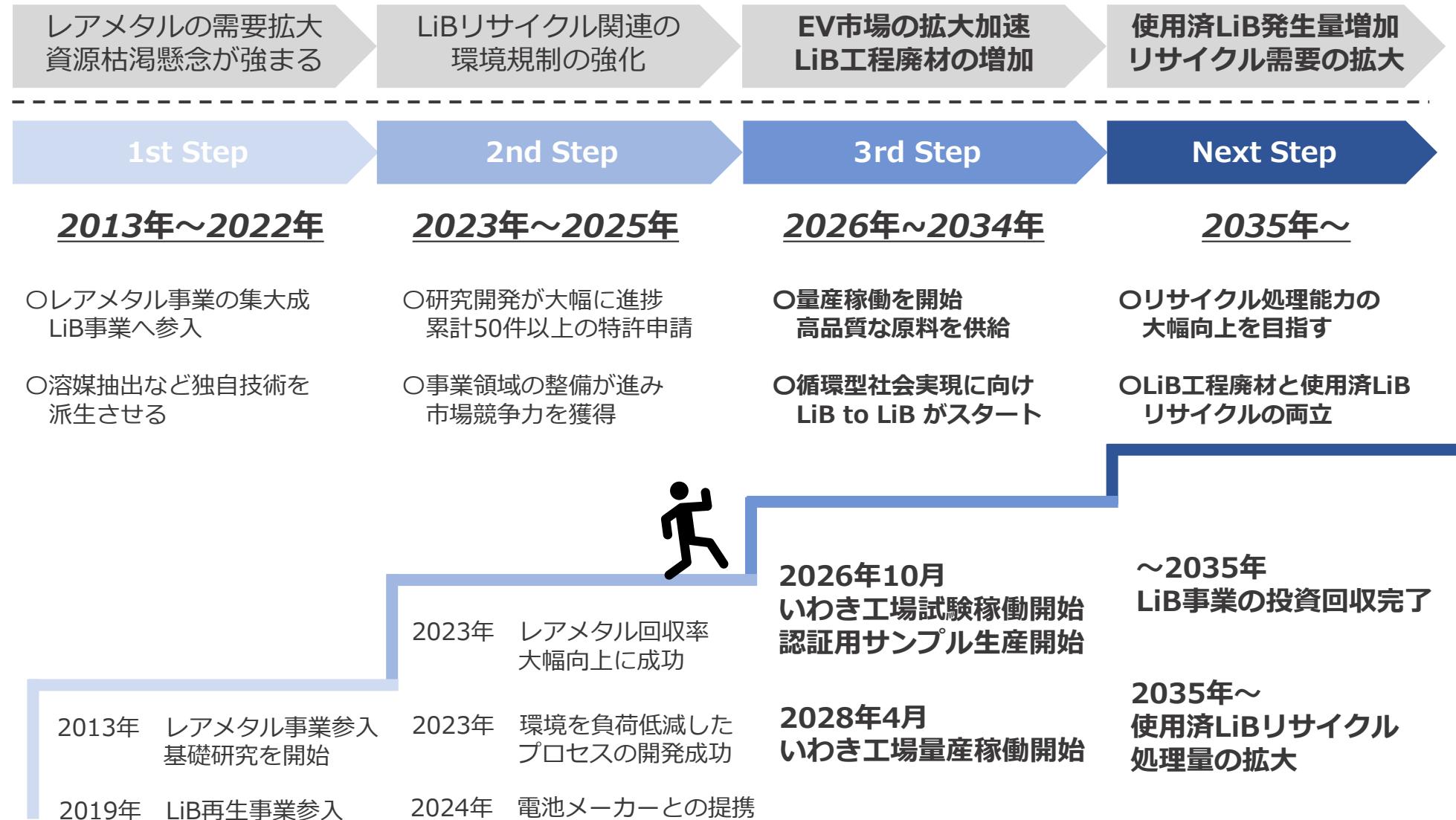
- 2028年4月の量産稼働開始後、1年程度の期間で稼働率を100%に近い状態で稼働を安定させる
- 稼働安定後は継続的な収益確保により2034年9月期前後の投資回収完了を見込む

トピックス いわき工場新築建屋工事の着工



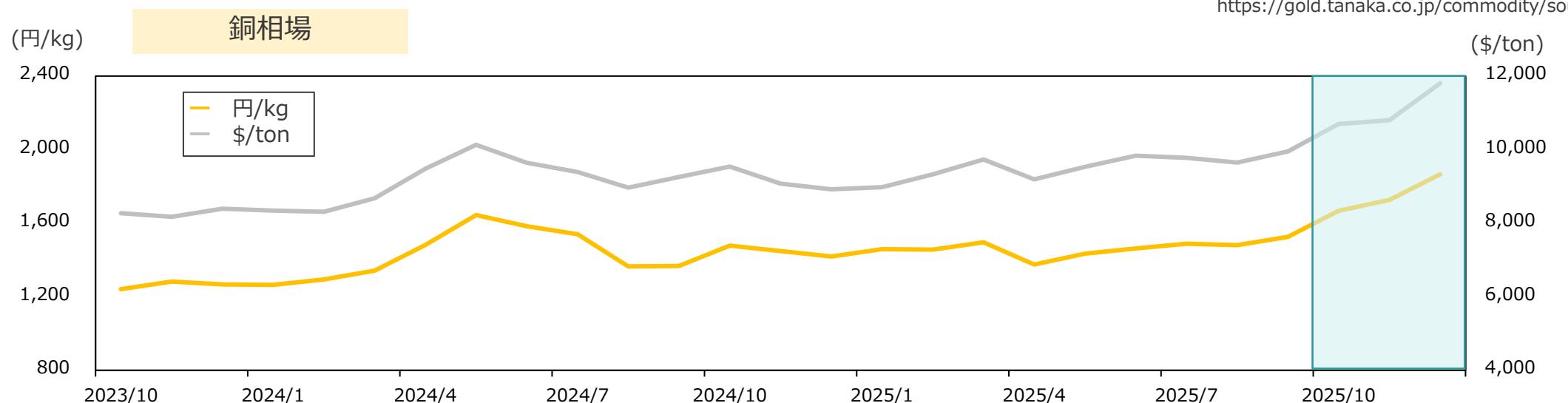
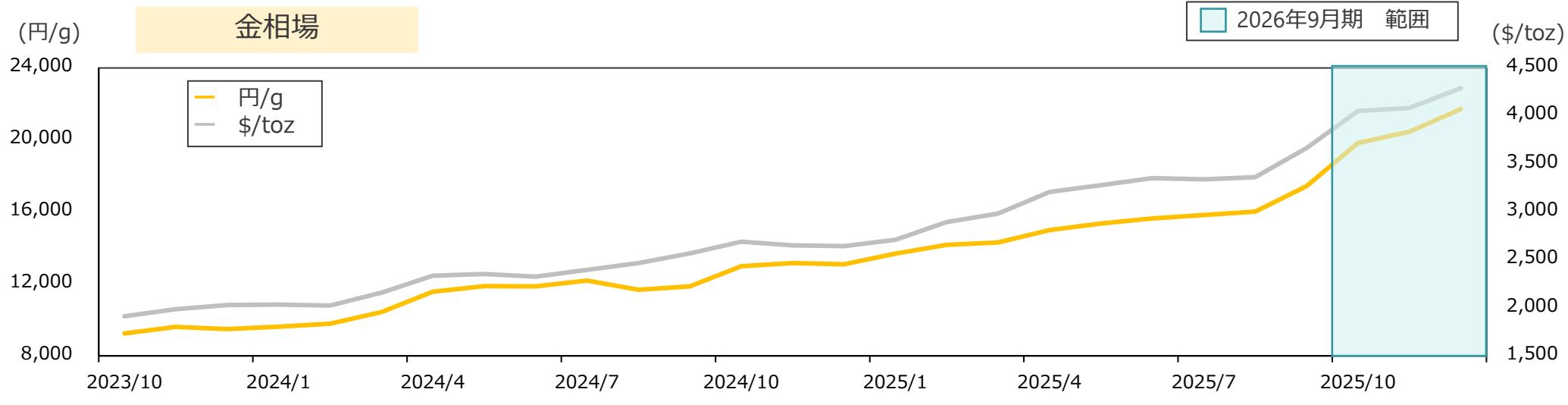
LiB再生事業は既存建屋の増築と専用建屋の新築によりプラントを設ける計画で、
2025年11月に新築建屋の建設工事の安全祈願祭を実施しました。新築工事は2026年夏ごろに完了予定です。

また、増築工事が完了した建屋には量産設備の導入が進んでおり、
2026年10月の試験稼働開始に向けプラントの整備は着々と進捗しています。



Appendix

主力製品相場推移



- ✓ 本書には、当社および当社グループに関する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ✓ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められる会計原則に従って表示されています。既に行っております今後の見通しに関する発表につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ✓ 本書はいかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付の申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。



ASK

株式会社アサカ理研